

PEO 構造問題プロジェクト 研究成果概要 「太平洋地域における高齢化と潜在成長」

(Aging and Economic Growth Potentials in the Pacific Region)

人口高齢化は最近、先進国と新興市場を問わず関心が高まっており、それは経済成長率の低下、技術革新の停滞、公的年金・健康保険などを通じた財政負担などの潜在的リスクが懸念されるからである。ここでは太平洋地域に焦点を絞るが、同地域は最も早く高齢化が進んでいる地域であり、これらのリスクの側面を検討し、とりわけ、財政負担以外の二つのリスクから、各地域の現状を理解し、そこから政策含意を引き出すことが目的となる。

これまでのところ、過去のデータに基づき、高齢化が経済成長に与える負のインパクトについて耳にすることが多い。けれども、同インパクトの将来見通しについては、人口高齢化という新たな現実に対する内生的および外生的な調整の可能性を考慮すべきである。とりわけ、人口高齢化の潜在成長へのインパクト、民間貯蓄行動や生産性成長へのインパクトを通じてのそれがわれわれの関心であり、それらは過去の経験とはかなりかけ離れたものと考えられる。

まず最初に、各国の人口動態を正確に捉えることが重要である。人口予測には不確実性が伴うことは避けられず、高齢化、出生率低下、長寿化はつねに過小予測されてきた。ここでは、これらのトレンドが各国で引き続き確かめられる。

人口高齢化の経済効果に関しては、とくに、各国および各時期における、その労働供給、物的あるいは人的資本形成、そして生産性との関係が注目される。疑わしいと思われるのは、労働市場参加率、民間貯蓄および投資、および生産性成長に関わるパラメータの時期ごとの安定性および国ごとの類似性であり、多くの先行研究はこれらを前提にしているからだ。ここでは、多かれ少なかれ過去のデータの外挿に他ならない、これらの特徴に注意を払い、同時に、民間部門と公共部門が、今後数世代にわたる人口高齢化という全く新しい現実に対して適応を試みる多様な経路を明示的に考慮したい。

政策手段としては、労働供給、国内貯蓄および生産性を高めるためのものが検討されている。これらの各カテゴリーにつき、現実の政策選択肢とその実施および計画を各国について論じる。